

2022年度 京都大学大学院農学研究科修士課程 私費外国人留学生特別選抜学生募集要項

本研究科の修士課程は大学院設置基準という博士課程前期2年の課程です。

1. 出 願 資 格

在留資格が「留学」である者又は入学時に「留学」の在留資格を取得できる見込みの者で、次の各号のいずれかに該当する者、あるいは2022年3月末までに該当する見込みの者

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 昭和28年文部省告示第5号をもって文部科学大臣の指定した者
- (9) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

※上記(9)、(10)により出願する者は、事前に出願資格の審査を受けなければなりません。

この資格で本年度出願する者は、**農学研究科大学院教務掛**（以下、**大学院教務掛**）の窓口へ申し出てください。

2. 募集人員及び学力試験科目

(1) 募 集 人 員

専 攻	募 集 人 員
農 学	各専攻（専門種目）で若干名
森 林 科 学	
応 用 生 命 科 学	
応 用 生 物 科 学	
地 域 環 境 科 学	
生 物 資 源 経 済 学	
食 品 生 物 科 学	

なお、専攻の概要については、別添「**農学研究科概要**」を参照してください。

(2) 学力試験科目

(イ) 英語

提出された TOEFL 等の英語スコアを換算して採点します。

(ロ) 専門科目（志望の専門種目並びにそれに関連する分野）

※生物資源経済学専攻、食品生物科学専攻は専門科目(1)(2)

別添「専門科目出題説明」に従って専門科目試験を課します。

試験においては、母国語と日本語との間の辞書（例えば、中日、韓日など）については1冊に限り使用を許可します。ただし、電子辞書に類するものの使用は許可しません。

(ハ) 面接

(3) 入学者選抜方法

- ① 入学者選抜は、出願書類の内容及び学力試験の成績により行います。
- ② 学力試験の各科目については、それぞれに合格基準を設けており、合格するためには全科目においてその基準を満たす必要があります。
- ③ 志望する専門種目の志願者が多い場合は、当該専攻の合格最低点を上回る得点であっても、不合格となる場合があります。

3. 出 願 書 類

下記の出願書類(1)、(2)、(4)、(10)の様式は、本研究科ホームページよりダウンロードし、各自で印刷した用紙（A4 サイズ）を出願書類として使用してください。

(1) 入 学 願 書	所定の用紙に、必要事項を本人が明記してください。 半身正面向きで出願前3カ月以内に単身撮影した同一の写真（無背景）を、「写真票」及び「受験票」の所定欄に貼ってください。
(2) 入学検定料収納証明書 (所定台紙に貼付)	入学検定料 30,000円 振込期間 2021年11月15日（月）～ 2021年12月3日（金）【期間外取扱不可】 （納入方法等） 京都大学 EX 決済サービスにより上記の期間に入学検定料を納入してください。 ①詳細は別紙「入学検定料支払方法」に従って納入してください。 ②入学検定料の他に支払い手数料（650円）が必要となります。 ③必ず「納入者名」が出願者本人の氏名であることを確認のうえ納入してください。 （出願者以外の名義で納入された場合、願書を受理できない可能性があります。） ④納入後、収納証明書を印刷し、「入学検定料収納証明書貼付台紙」に貼り付けて提出してください。 ⑤願書受理後の入学検定料は、返還できませんのでご注意ください。 （入学検定料の免除） 2011年3月に発生した東日本大震災、2016年4月に発生した熊本地震、2018年7月豪雨、2018年9月に発生した北海道胆振東部地震、2020年7月豪雨による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災された方で、罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがあります。 詳しくは、11月19日（金）までに、大学院教務掛まで問い合わせてください。
(3) 英語力検定試験成績表	出願開始日から2年前（2022年1月実施の入試の場合は、2019年11月29日）以降に受験したTOEFL-iBTまたはIELTSの英語スコア（原本）を提出してください。詳細は、下記のTOEFL等英語スコア（TOEFL-iBT、IELTS）の提出に関する注意事項を参照してください。
(4) 詳細な学歴・職歴等 について	所定の用紙に、詳細な学歴・職歴を記入してください。

(5)成績証明書および卒業 (見込) 証明書 (原本)	英文でないものは、日本語訳を添付してください。 ・出身大学所定のもの (本学農学部在学中の者及び卒業した者は「学業成績及び卒業(見込) 証明書」を提出のこと) ・出身大学以外の大学で取得した単位が認定されている場合には、単位を取得した大学の成績証明書も提出すること。 ・出願資格(9)で出願するものは卒業(見込) 証明書に代えて、在学証明書を提出すること。
(6)大学の卒業証書の写し	卒業見込で出願した者は、卒業後速やかに提出してください。
(7)卒業論文概要書 又は 実験、実習、演習概要書	A4横書き 1,000 字以内で作成し、志望専攻・専門種目・氏名を付記してください。(英文の場合は 300 ワード以内で作成)
(8)住 民 票 又は 在留カード(両面)の写し	【日本国内居住者のみ】 在留資格、在留期間が記載されたものを提出してください。
(9)パスポートの写し	
(10)あ て 名 票 受験票送付用封筒 合格通知送付用封筒	・あて名票は所定の用紙を使用してください。 ・あて名票の「①受験票送付用」及び「②合格通知送付用」を長形 3 号封筒 (120 mm× 235 mm) に貼り付けてください。封筒は各自で準備してください。 ・受験票送付用封筒には 384 円分の切手 (速達料金) を貼ってください。

(注) 出願資格(2)による学士の学位を授与された者は、学位記の写し又は学位授与証明書を提出してください。

また、短期大学あるいは高等専門学校に置かれた専攻科に在籍する者で、出願資格(2)に該当する見込みの者は、上記書類のほか、当該専攻科の「修了見込証明書」及び「学士の学位授与申請予定である旨の証明書」(様式随意：学位が得られないこととなった場合は、速やかに通知する旨の記載があるもの)を提出してください。

TOEFL 等英語スコア (TOEFL-iBT、IELTS) の提出に関する注意事項

1. 各自で TOEFL-iBT または IELTS (アカデミック・モジュール) (以下、IELTS) の申し込み手続きを行い、受験してください。TOEFL-iBT および IELTS テストの受験に必要な費用は各自で負担してください。
2. TOEFL-iBT の **Test Taker Score Report** の原本または IELTS の公式成績証明書の原本(いずれもコピー不可)を出願時に提出してください。
3. 提出したスコアの原本は受験票とともに 12 月中旬に受験者に返送します。
4. TOEFL-iBT、IELTS をあわせて複数回受験している場合、そのうちいずれか 1 つのスコアを提出してください。なお、TOEFL iBT のスコアは、MyBest スコアは使用せず、Test Date スコアを使用します。
5. 出願開始日から 2 年前 (2022 年 1 月実施の入試の場合は、2019 年 1 月 29 日) 以降に受験した TOEFL-iBT、IELTS テストのスコアに限り提出が可能です。団体試験用の TOEFL ITP のスコアは受け付けないので注意してください。
6. 出願時に TOEFL-iBT、IELTS のスコアの原本の提出が間に合わない場合は、まず、その旨を明記した書面および Web 上のスコア確認ページのコピーを提出してください。次に、原本とその返送用封筒 (長形 3 号の封筒に 519 円分の切手を貼り、返送先住所を記載したもの) を 2022 年 1 月 21 日 (金) 必着で持参または郵送「書留」により提出してください。(持参の場合、返送用封筒は不要です。) 2022 年 1 月 21 日 (金) までに原本が間に合わない場合は、同日までに大学院教務掛へ相談してください。
7. TOEFL-iBT、IELTS のスコアについて、不正が判明した場合は失格とし、入学後であっても、過去に遡って合格を取り消します。
8. 英語を母語とする者及び母語とはしないが英語で大学教育を受けた者は提出を免除する場合がありますので、11 月 19 日 (金) までに大学院教務掛まで問い合わせてください。

9. 出願要件について

TOEFL-iBT スコアが 55 点以上、IELTS スコアが 4.5 以上のうち、少なくとも 1 つの要件を満たす者。

4. 出 願 手 続

(1) 出願者は、前記の出願書類を、出願期間中に提出してください。

なお、郵送の場合は、封筒の表に「修士課程私費外国人留学生特別選抜入学願書」と朱書きし、必ず「書留」にしてください。

提出先：〒606－8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学農学研究科等大学院教務掛

(2) 出願資格(9)、(10)により出願する者は、次の書類を 2021 年 11 月 19 日（金）までに大学院教務掛に提出し、指示に従ってください。

[出願資格(9)による者]

- ① 出願資格審査申請書（所定用紙）
- ② 成績証明書（所定用紙）
- ③ 3 年次における修得見込科目・単位数（所定用紙により本人の申告）

なお、この出願資格による入学試験合格者は仮合格者であり、3 月末に 3 年次の取得単位成績を確認後正式に合格者とします。したがって、2022 年 3 月 10 日（木）までに成績証明書を提出してください。また、仮合格者は、学力試験の成績が特に優秀であった者から選抜されます。

[出願資格(10)による者]

- ① 出願資格審査申請書（所定用紙）
- ② 最終出身学校の卒業証明書及び成績証明書
- ③ 業績調書（所定用紙）

なお、口頭試問により出願資格審査を行います。日時についてはおって連絡します。

(3) 障害等のある者で、受験上若しくは修学にあつたての配慮を希望する場合は、事前に大学院教務掛に申し出てください。

5. 願 書 受 理 期 間

2021 年 11 月 29 日（月）から 12 月 3 日（金） 午後 5 時まで（必着）。

郵送の場合も含め、一切の理由を問わず、期限後の出願は受理しません。

ただし、2021 年 12 月 1 日（水）以前の発信局消印のある書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理する。

6. 試験日程及び場所

月 日	時 間	試 験 科 目	場 所
2022 年 1 月 22 日 (土)	13:00～14:30	専門科目(1) 生物資源経済学専攻	京都大学大学院 農学研究科 京都市左京区 北白川追分町 (市バス「京大 農学部前」下車)
	13:00～15:00	専門科目(1) 食品生物科学専攻	
	16:00～17:30	専門科目 農学・森林科学・応用生命科学・応用生物科学・地域環境科学専攻	
		専門科目(2) 生物資源経済学専攻	
	16:00～18:00	専門科目(2) 食品生物科学専攻	
2022 年 1 月 23 日 (日)	13:00～17:00	面接	

(注) 専門科目は、志望する専攻により試験時間が異なるので注意してください。

7. 合格者発表

2022年1月27日(木)午後5時頃、本研究科ホームページに掲載し、同時に合格者へ合格通知書を発送します。電話による照会には一切応じられません。

http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/japanese/admission/div_adm_info



8. 入学料及び授業料

入 学 料 282,000円 ※ 入学時に改定されることがあります。
授 業 料 年額 535,800円 ※ 入学時、在学時に改定されることがあります。

9. 注 意 事 項

- (1) 専門種目の選定にあたっては、研究科概要を参照のうえ、**必ず事前に志望する専門種目の教員と連絡を取ってください。**

なお、専門種目の選定にあたって不明な点があれば、**大学院教務掛**にお問い合わせください。(TEL. 075-753-6014)

- (2) 願書等の訂正は、該当部分を＝線で抹消し、その上部に記入してください。
(3) 試験室や試験に関する指示は、1月21日(金)午前9時に**農学部総合館教務関係事務室前掲示板**に掲示し、また、本研究科ホームページにも掲載しますので、必ず見ておいてください。
(4) 企業・官公庁・研究機関等に在職の者は、入学試験に合格しても、退職又は休職しなければ入学できません。
(5) 外国の大学を卒業、又は卒業予定の志願者は出願手続きの前に京都大学アドミッション支援オフィス(Admissions Assistance Office, AAO)へ申請を行ってください。詳しくは下記ウェブサイトを参照ください。

<https://u.kyoto-u.jp/graduate-admissions-aa0>



- (6) その他
(a) 本研究科修士課程では、(1)フルタイムの有職者、(2)育児又は親族の介護を行う必要がある者、(3)身体等に障害を有する者を対象に、標準修業年限(修士課程2年)を超えて一定の期間(上限4年間)にわたり、計画的に教育課程を履修し修了することを認める長期履修制度を導入しています。希望者は、詳細について大学院教務掛にお問い合わせください。(TEL. 075-753-6014)
(b) 出願手続後は、いかなる事情があっても出願書類記載事項の書き換えはできません。また、入学検定料の払い戻しはできません。
(c) 出願者に対する宿泊施設などの紹介・斡旋等はありません。
(7) 個人情報の取扱いについて
出願書類等に記載されている、氏名、性別、生年月日、住所、その他の個人情報は、①入学試験の実施、②入学手続き、奨学金制度等、③入学者の受入準備等の目的において利用します。
(8) 災害時等の学力試験の実施について
雪・地震等により、学力試験日程への影響が懸念される場合は、本研究科ホームページから実施についての告知を行います。

2021年11月

京都大学大学院農学研究科

2022年度京都大学大学院農学研究科修士課程入学試験
(私費外国人留学生特別選抜)
専門科目出題説明

専攻	出 題 説 明		
農 学	専門科目は、各専門種目（作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、雑草学、栽培システム学、品質設計開発学、品質評価学、植物生産管理学）から出題する。 ※ 志望する専門種目の問題についてのみ解答する。		
森 林 科 学	専門科目は、各専門種目（森林・人間関係学、熱帯林環境学、森林利用学、森林生物学、環境デザイン学、山地保全学、生物材料設計学、林産加工学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林情報学、森林育成学、木材構造情報学、生物機能材料学、循環材料創成学、居住圏環境共生学、木質構造機能学）から出題する。 ※ 志望する専門種目の問題についてのみ解答する。		
応 用 生 命 科 学	専門科目は、下表のとおり志望する専門種目に該当する領域に関係した問題を出題する。		
	専 門 種 目	領 域	出 題 範 囲
	生体機能化学	物 理 化 学 領 域	化学熱力学、化学平衡、反応速度
	生物調節化学、化学生態学、生物機能制御化学、分子生体触媒化学	有 機 化 学 領 域	反応・合成、構造解析、生理活性物質
	細胞生化学、生体高分子化学、木質バイオマス変換化学	生 化 学 領 域	遺伝子の構造と機能、タンパク質の構造と機能、糖・脂質の化学、酵素化学・反応論
	発酵生理及び醸造学、制御発酵学、エネルギー変換細胞学、分子微生物科学	応用微生物学領域	微生物の種類と特徴、微生物の増殖、微生物の代謝、発酵生産、微生物酵素の利用
	植物栄養学、森林圏遺伝子統御学、森林代謝機能化学	植 物 科 学 領 域	植物の栄養成分の吸収・代謝・機能、光合成、植物細胞の構造、二次代謝
	※ 志望する専門種目の問題についてのみ解答する。		
応 用 生 物 科 学	専門科目は、各専門種目（植物遺伝学、栽培植物起原学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学、海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学、里海生態保全学）から出題する。 ※ 志望する専門種目の問題についてのみ解答する。		
地 域 環 境 科 学	専門科目は、各専門種目（比較農業論、森林生態学、森林水文学、森林生化学、熱帯農業生態学、土壌学、微生物環境制御学、生態情報開発学、施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、放射線管理学、農業システム工学、フィールドロボティクス、生物センシング工学）から出題する。 ※ 志望する専門種目の問題についてのみ解答する。		

専攻	出 題 説 明																				
生 物 資 源 経 済 学	専門科目は、(1) 生物資源経済学一般から出題する共通問題と、(2) 各専門種目から出題する専門種目別問題から成る。 (1)の生物資源経済学一般の問題は、生物資源経済学に関わる小論文と専門用語を問う形式の共通問題である。 (2)の専門種目別問題は、各専門種目（農業食料組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林経済政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論）から出題する。 ※ 志望する専門種目の問題についてのみ解答する。																				
食 品 生 物 科 学	専門科目(1)（100 点満点）は、「生化学」、「有機化学」、「物理化学」の3 領域に関連する問題を出題する。各領域から2 問題の計 6 問題のすべてを解答すること。 専門科目(2)（100 点満点）は、「生物有機化学」、「食品生物工学」、「生化学・酵素科学」、「応用微生物学」、「栄養科学」、「食品科学」の6 領域から出題する。各領域から1 問題の計6 問題の中から 2 問題を選択して解答すること。これとは別に、応用微生物学、栄養科学、食品科学領域から英文和訳問題を含む英語関連の 2 問題の全てを解答すること。 各領域の出題範囲は次表のとおりである。 <table><tr><td rowspan="3">専 門 科 目 (1)</td><td>生化学</td><td>タンパク質、糖質、脂質の構造 解糖系・クエン酸回路・電子伝達系 遺伝子とタンパク質の生合成</td></tr><tr><td>有機化学</td><td>有機化合物の構造と化学結合、立体化学 酸・塩基反応と解離定数、酸化と還元 基本的な有機化学反応（付加、脱離、置換）</td></tr><tr><td>物理化学</td><td>気体と溶液の性質、熱力学、相平衡、化学平衡、電解質溶液と電池、反応速度論、光化学</td></tr><tr><td rowspan="6">専 門 科 目 (2)</td><td>生物有機化学</td><td>有機化学反応全般ならびに反応機構 機器分析による構造決定</td></tr><tr><td>食品生物工学</td><td>物質収支、水分と乾燥、伝熱・殺菌、物質移動、レオロジー、界面化学、バイオリアクター</td></tr><tr><td>生化学・酵素科学</td><td>生体分子の構造と機能 代謝と生体エネルギー論</td></tr><tr><td>応用微生物学</td><td>微生物の分類・形態・増殖 代謝と発酵、遺伝子と情報伝達</td></tr><tr><td>栄養科学</td><td>栄養素の消化・吸収、エネルギー代謝 栄養素の代謝</td></tr><tr><td>食品科学</td><td>食品成分の化学と機能 食品の成分変化と品質</td></tr></table> 出題等の詳細については、食品生物科学専攻 HP（http://www.food.kais.kyoto-u.ac.jp/）の大学院入試情報をご覧ください。	専 門 科 目 (1)	生化学	タンパク質、糖質、脂質の構造 解糖系・クエン酸回路・電子伝達系 遺伝子とタンパク質の生合成	有機化学	有機化合物の構造と化学結合、立体化学 酸・塩基反応と解離定数、酸化と還元 基本的な有機化学反応（付加、脱離、置換）	物理化学	気体と溶液の性質、熱力学、相平衡、化学平衡、電解質溶液と電池、反応速度論、光化学	専 門 科 目 (2)	生物有機化学	有機化学反応全般ならびに反応機構 機器分析による構造決定	食品生物工学	物質収支、水分と乾燥、伝熱・殺菌、物質移動、レオロジー、界面化学、バイオリアクター	生化学・酵素科学	生体分子の構造と機能 代謝と生体エネルギー論	応用微生物学	微生物の分類・形態・増殖 代謝と発酵、遺伝子と情報伝達	栄養科学	栄養素の消化・吸収、エネルギー代謝 栄養素の代謝	食品科学	食品成分の化学と機能 食品の成分変化と品質
専 門 科 目 (1)	生化学		タンパク質、糖質、脂質の構造 解糖系・クエン酸回路・電子伝達系 遺伝子とタンパク質の生合成																		
	有機化学		有機化合物の構造と化学結合、立体化学 酸・塩基反応と解離定数、酸化と還元 基本的な有機化学反応（付加、脱離、置換）																		
	物理化学	気体と溶液の性質、熱力学、相平衡、化学平衡、電解質溶液と電池、反応速度論、光化学																			
専 門 科 目 (2)	生物有機化学	有機化学反応全般ならびに反応機構 機器分析による構造決定																			
	食品生物工学	物質収支、水分と乾燥、伝熱・殺菌、物質移動、レオロジー、界面化学、バイオリアクター																			
	生化学・酵素科学	生体分子の構造と機能 代謝と生体エネルギー論																			
	応用微生物学	微生物の分類・形態・増殖 代謝と発酵、遺伝子と情報伝達																			
	栄養科学	栄養素の消化・吸収、エネルギー代謝 栄養素の代謝																			
	食品科学	食品成分の化学と機能 食品の成分変化と品質																			

【重要】京都大学大学院農学研究科森林科学専攻および地域環境科学専攻 修士課程・博士後期課程の改組および募集人員の変更について（予告）

農学研究科では、令和4（2022）年度から、次のとおり改組および募集人員の変更を計画しています。

この計画は、現在、文部科学省に申請中であり、改組が認められない場合は現行の制度のままとなります。

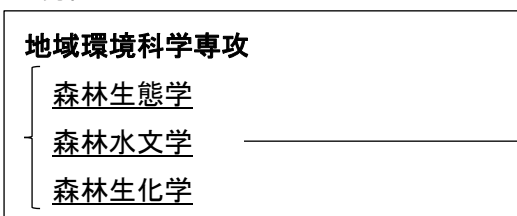
入学試験については、8月と1月に現行の制度を前提とした入試を実施します。入試で合格した者は、改組が認められた場合、改組後の専攻に入学することになります。

○改組計画と募集人員

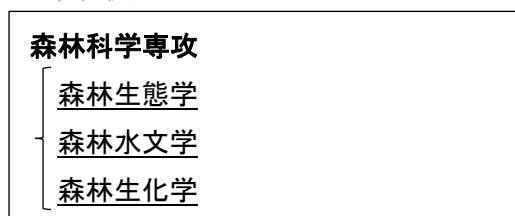
・改組計画

地域環境科学専攻に属する3つの専門種目（森林生態学、森林水文学、森林生化学）を森林科学専攻へ配置換えを行う。

《現行》



《改組後》



・募集人員

	《現行》	《改組後》
森林科学専攻	修士 48名、博士 17名	修士 58名、博士 20名
地域環境科学専攻	修士 50名、博士 15名	修士 40名、博士 12名

○入試概要

令和3（2021）年8月 現行制度での修士課程入学試験実施

令和4（2022）年1月 現行制度での修士課程・博士後期課程入学試験実施

→地域環境科学専攻に属する3分野（森林生態学、森林水文学、森林生化学）の合格者は、改組が認められれば、森林科学専攻に入学となります。

コンビニ・クレジットカードでの入学検定料支払方法

コンビニ（セブン-イレブン・ローソン・ミニストップ・ファミリーマート・セイコーマート・デイリーヤマザキ）、クレジットカード、金融機関ATM、ネットバンキングを利用して24時間いつでも支払が可能です。

1 Webから申し込み

以下のURLにアクセスし、一覧から本学を選択後、画面の指示に従って申込みに必要な事項を入力してください。

<https://www3.univ-jp.com/kyoto-u/agr/>



2 申込内容の確認

受付番号（受験番号ではありません）とお支払に必要な番号が表示されるのでメモするか画面を印刷してください。なお、個人情報入力画面で入力したメールアドレスとパスワードは収納証明書を表示するときに利用します。

3 お支払い

お支払いは、以下のいずれかの方法で行ってください。

コンビニエンスストア（30万円未満のお支払い）					クレジットカード
セブンイレブン 	ローソン ミニストップ (Loppi) 	ファミリーマート (Famiポート) 	セイコーマート 	デイリーヤマザキ 	
レジにて「インターネット支払い」と店員に伝え、プリントアウトした【払込票】を渡すか、【払込票番号】を伝えお支払ください。 ※プリントしなかった場合は、番号を伝えるのみでOKです。 マルチコピー機は使用しません	各種サービスメニュー	代金支払い (コンビニでお支払い)	レジで店員に 「インターネット支払い」と伝える	レジで店員に 「オンライン決済」と伝える	本人確認のため、クレジットカードに記載されている情報を入力しますので、支払前にクレジットカードを準備してください。 支払い方法は一括払いのみです。 クレジットカードの利用限度額を確認した上で利用してください。
	各種代金・インターネット受付・スマートビットのお支払い	番号入力画面に進む	「オンライン決済番号」を入力	レジにて入学検定料を現金にて支払う	
	各種代金お支払い	「お客様番号」を入力			
	マルチペイメントサービス	「確認番号」を入力			
	「お客様番号」を入力	同意して利用する			
「確認番号」を入力	出願情報が正しければ「確認」「印刷」ボタンを押す 端末より申込券が出るので30分以内にレジにて入学検定料を現金にて支払う				
金融機関ATM【Pay-easy】					ネットバンキング
以下の金融機関でPay-easyマークの付いているATMでお支払いができます。 1回のお申込みにつき、現金では10万円未満、キャッシュカードでは100万円未満のお支払いが可能です。 (利用可能な金融機関の一例) ・ゆうちょ銀行 ・みずほ銀行 ・りそな銀行/埼玉りそな銀行 ■支払い可能金融機関は下記ページの「ATM利用可能一覧」を確認してください。 http://www.well-net.jp/multi/financial_list/index.html					都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協などのネットバンキングを利用することができます。事前に金融機関にて申し込みが必要です。 また、楽天銀行、PayPay銀行、auじぶん銀行、住信SBIネット銀行でも支払うことができます。事前に金融機関にて口座の開設が必要です。
「税金・料金払込み」又は「Pay-easy」を選択					お支払いおよび申込内容のご確認画面を開く
「収納機関番号」「お客様番号」「確認番号」を入力					[ネットバンキングでの支払に進む]ボタンを押す
現金またはキャッシュカードを選択して、入学検定料を支払う					ネットバンキングの契約をしている金融機関を選択し、ログインする

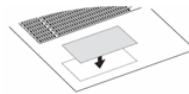
お支払い可能なコンビニエンスストア・金融機関は変更する場合があります。詳しくはWebサイトをご確認ください。

4 出願書類への収納証明書貼付

お支払いおよび申込内容のご確認画面から収納証明書を印刷して、必要な部分を切り取り志願票の所定の位置に貼付してください。必要書類と同様に郵送してください。



①必要な部分を切り取り、



②出願書類の所定の場所へ貼付する。

事務手数料が別途かかります。詳しくはWebサイトをご確認ください。

農学研究科における入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

農学とは、人類が地球上でいかに豊かで持続的な営みを確立して存在できるか、という最も重要で根源的な課題に立ち向かい、最先端の基礎研究によって次の時代を支える「知の基盤」を築く学問領域である。農学研究科では、「生命・食料・環境」をキーワードとして 21 世紀における地球規模の重要課題である、資源、エネルギー、地域社会、情報、生活、健康、文化等にかかわる様々な課題に取り組んでいる。農学研究科は 7 専攻から構成され、それぞれ異なるアプローチから人類の生存にかかわるこれらの課題に対処し、人類の福祉の向上と持続的な繁栄に貢献することを目指した農学研究と人材育成を行っている。したがって、本研究科では、専門分野を学ぶために以下のような資質を持つ学生を求める。

1. 幅広い視野と十分な基礎学力をあわせもち、かつ高い倫理性と強固な責任感を身につけた人。
2. 農学研究を通じて、社会の発展に貢献するという意識の高い人。
3. 研究課題を自ら設定することができ、その課題に果敢にチャレンジする意欲と研究遂行能力のある人。
4. 国際的視野に立った高いコミュニケーション能力を有する人。

農学研究科修士課程

上記のポリシーを実現するため、本研究科修士課程では、英語や各専攻の専門知識を評価する筆記試験と面接とを組み合わせた入学試験を、一般学生および社会人に対して実施する。また、私費外国人留学生に対しては、専門科目の筆記試験と面接により入学試験を実施する。いずれの場合も、評価方法の詳細については、募集要項に明示する。

なお、各専攻の専門知識の筆記試験と面接については、以下に掲げる各専攻の人物像のもとで入学試験を実施する。

【農学専攻】

農学専攻は、人類が直面している食料・環境問題や地域固有の農業問題の解決に向けて、高度な専門知識と学際統合能力をもつ人材育成および新しい技術の創成を目標に、作物の生産と利用にかかわる分子・細胞レベルから個体・群落・地域生態系レベルに至る農学の幅広い領域について教育・研究を行っている。

課題解決に必要な専門基礎知識と研究手法を修得させ、さらにそれらを活用して研究論文を作成することのできる高度な専門家の育成を目指す。それに求められる人物像は次のようである。

1. 学部での専門にかかわらず、世界の食料・環境問題および地域固有の農業問題に強い関心を持ち、その問題解決に果敢にチャレンジする意欲をもっている人。
2. 農学関連諸科学の十分な知識をもち、かつ国際化に対応し得る語学力を備えている人。
3. 新しい知識の吸収意欲が高く、かつそれらの知識を科学上の発見、新技術の創造および問題解決に結びつけようとする意識の高い人。

【森林科学専攻】

森林科学専攻は、人類の健康かつ快適な生活環境を、森林を中心とする多くの生物との共棲によって維持し増進することを目指している。研究対象を空間的視点で捉えると、人間が日常的に利用するエネルギー、衣料、家具、住居や町並みなどの比較的狭い居住環境から、都市、農地、里山などが適度に連携し、新鮮な大気と水、風景を備えた地域的環境、そして地球規模での環境保全とバイオマス資源利用による地球温暖化の防止など、関係する対象は非常に広範である。そこで教育研究の背景となる学問領域は、高度な自然科学はもとより、人文社会科学的観点も重要な意味を持つ。また研究手法も海外を含めたフィールド研究、精緻なラボラトリー研究、情報処理など多岐にわたる。

これら広範な学問領域や研究手法を参考にして、研究課題を自ら設定できる高い意識と学力を有する人材を、出身大学や学部、学科の枠を超えて募集する。

【応用生命科学専攻】

応用生命科学専攻では、微生物から植物やヒトにわたる広い範囲の生物を対象とし、以下の観点から教育・研究をおこなう。

1. 生命現象を物理化学・有機化学・生化学・分子生物学を基にして理解し発展させる。
2. 微生物・植物・動物を対象とし、生物機能の共通性と多様性を理解し発展させる。
3. 研究を通して、研究アプローチの仕方、論理的思考を修得するとともに、独創性を養う。
4. 新たな発見・発明を応用研究に発展させ、研究の成果を社会に還元する。

教育においては積極的な自学・自習を尊重し、生命現象の原理の理解とともに、その原理に基づいて発酵・食品・化学工業・食料生産・環境保全・医療などの現場で生じる様々な課題を解決し、その成果を新しいバイオテクノロジーやバイオサイエンスとして展開できる研究者・技術者を育成する。

このような教育を受け止めることのできる英語力および物理化学、有機化学、生化学、微生物学、植物科学分野の学力を備え、明確で強い動機を有する人材を幅広い分野から募集する。

【応用生物科学専攻】

応用生物科学専攻は、農林生物学、水産学、畜産学及び熱帯農学等を統合した多様な研究領域からなっており、21世紀に直面するであろう資源生物、食料、健康、環境にかかわる新しい諸問題に対し、学際的かつグローバルに対応できる教育・研究拠点を構築することを基本理念としている。本専攻では、陸地ならびに海洋に生息する微生物から動植物にわたる多様な生物とそれを取りまく環境を対象に、それらの利用・創出・保存・保全について、分子から個体、さらには生態系レベルに至る幅広い視点から教育・研究を行い、従来の枠にとらわれない学際的な取り組みができる人材を育成することを目指している。

この目標の実現に向けて、修士課程では急速に進みつつある生物科学の新しい学問領域にチャレンジしようという意欲ある学生を広く募集する。大きな夢を創る科学者になりたい人、その夢

を実現する先端技術者になりたい人を歓迎する。

【地域環境科学専攻】

人類は地球上のそれぞれの地域に特有な自然環境に対応しながら生活している。地域環境科学専攻は、これからも人類が自然環境を形作る構成要素と共存しつつ、生産・生活活動を望ましい姿でともに発展させるための研究を志向している。そのために、生物・生態系の研究を行うグループと地域環境工学研究グループが相互に協力しながら、食料生産と環境保全の両面を視野に入れた学際的・国際的研究を行っている。本専攻は平成7年に従来の11の講座、1研究部門、1室を組織替えし、さらに4分野を新設して発足した多様な研究分野によって成り立っている。

所属分野に関する専門的知識と技術の習得および将来の基礎となる研究を目指すだけでなく、幅広い知見を身につけて社会で活動する人材を養成することを期待し、所属分野以外の講義や演習も履修することを義務づけている。本専攻は地球上のさまざまな地域と、さまざまな生物・環境を研究対象としており、それまで修得した学問領域にこだわらず、幅広い視野を築くことを目指す人を歓迎する。

【生物資源経済学専攻】

望ましい人類の発展は、世界の国家間のまた人間相互の協力や社会的・経済的な調整の仕組みに大きく依存する。現代社会では、めざましい科学・技術の進歩のなかで、先進国の富や食料過剰と発展途上国の貧困が併存するとともに、日本のように先進国でも危機的なほどに食料自給率が低下している国がある。そのなかで環境問題や地域社会問題、食品安全問題が発生している。20世紀に築かれた、科学、技術、資源の利用のあり方を決める経済思想や貿易をはじめとする国際的なルール、それにもとづく国内外の社会的、経済的、経営的な制度やシステムがそのような状態をもたらしており、現在、その根元的な見直しが求められている。本専攻は、経済学をベースに経営学、社会学、歴史学、政治学などの理論をもとに、このような制度およびシステムのかかえる問題の解明とあらたなシステムや政策の開発にあたることを課題としている。

本専攻では、このような現代社会の直面する課題に果敢に挑戦し、新たな視野を切り開く人材を育てることを目標としている。修士課程、博士課程を通して、研究者を育成することを主としながら、人文・社会科学を基礎にした分析的・創造的能力をもって行政、農業関連機関、企業などで高度専門的な仕事にあたる人を育てる。

入学希望者は、既存理論を十分に習得していることが必要であるが、それにとらわれず、関連領域の幅広い研究成果を深く吸収しつつ、現実社会のかかえる問題に肉迫し、それを解明しうる新たな理論を構築しようとする意志をもつ人を求める。または、そのような理論を背景に政策的提言や高度専門的な仕事をとおして社会に貢献することに強い意欲をもつ人を求める。

【食品生物科学専攻】

食品にかかわる研究分野は益々広範かつ学際的になっている。食品に関連する産業規模の巨大化に加えて、食に内在する課題も多岐に涉っている。飢餓に直面する社会がある一方で、飽食が

故に陥る疾病が蔓延する社会もある。わが国では、伝統的な食生活が崩壊の危機に瀕しており、また、食糧の自給率と安全性は緊急の課題である。国民の健康向上を目指して、医学、薬学とともに食品科学が重要な貢献をすべきである。

以上の諸課題の解決には、新たな食品研究基盤の構築が必要である。すなわち、食品のみを対象とするのではなく、「人間と環境と食」の相互作用に関する深い理解が求められる。本「食品生物科学」専攻は、食にかかわる広範な問題を根源から捉え、対応できる人材育成とその基盤となる研究開発を目的として、平成 13 年 4 月に発足した。食品生物科学に関して、専門的教育と先端的な研究体制を整備して、教育・研究にあたっている。生命科学、生物学、有機化学、生化学、遺伝子生物学、食品化学、化学工学、酵素化学、物性科学、栄養学、健康科学、運動科学、免疫学、生理学、微生物・発酵学、味覚感覚学、実験心理学、動物行動学などの研究分野を体系化し、食に取り組むための新たな学問の構築を試みており、未来の研究をリードしていくことに重点をおいている。目的遂行のため、個別の特色をもつ「食品生命科学」、「食品健康科学」、「食品生産工学」の 3 講座を設置している。

「食品生物科学」に対し十分な意欲をもって挑戦しようという学生を、出身学部、学科の枠にとらわれることなく募集する。大きな夢を創る科学者になりたい人、その夢を実現する先端技術者になりたい人、食の科学・技術と夢を将来に継承することに興味をもつ人を歓迎する。